

WebARENA SuitePRO V3
迷惑メールフィルタ
バージョン切り戻しマニュアル

2016.9.8

株式会社 NTTPC コミュニケーションズ
WebARENA テクニカルサポート

◇はじめに

1. 概要

本書では、「WebARENA SuitePRO V3 迷惑メールフィルタ バージョンアップマニュアル」にて、Scanmail バージョンアップの失敗時に備え、作業前の状態に切り戻す手順を案内しています。

この手順につきましては「WebARENA SuitePRO V3 迷惑メールフィルタ バージョンアップマニュアル」で案内している作業をすべて実施されていることを前提条件とします。

※オプションサービスのバックアップファイルからの復旧を選択される場合は、本手順の作業は不要です。作業手順につきましてはこちらをご参照ください。

<http://web.arena.ne.jp/support/suiteprov3/manual/centos5/index.html>

なお、バックアップで切り戻す場合は、Scanmail 以外のすべてのファイルもバックアップ取得時点の状態に戻ります。あらかじめご注意ください。

◇事前準備

1. 現在のバージョン確認

切り戻しを実施するか確認するため、現在インストールされているパッケージを確認します。

rpm -qa scanmail

```
scanmail-4.10-8_sasl_auth_postfix
```

→最新版の scanmail がインストールされています。切り戻しが必要です。

```
scanmail-4.9-antispam_SMTPAUTH_TLS
```

→切り戻し不要です。

rpm -qa sbassdk

```
sbassdk-10.5-0
```

→最新版の sbassdk がインストールされています。切り戻しが必要です。

```
sbassdk-6.10-0.i386
```

→切り戻し不要です。

※sbassdk および scanmail が次のとおり両方切り戻し不要のバージョンとなる場合は以降の作業をする必要はありません。

```
sbassdk-6.10-0.i386
```

```
scanmail-4.9-antispam_SMTPAUTH_TLS
```

それ以外は、上記の結果を記録し以降の手順をすべて実行してください。

◇切り戻し

パッケージをアンインストールします。

1. インストールされているパッケージの削除 — scanmail

①次の作業実施前に Scanmail の停止をしてください。

```
# service postfix stop
```

```
# /etc/init.d/scandb stop
```

②scanmail をアンインストールします。

- ・ファイルがあることを確認します。

```
# ls -l /usr/libexec/postfix
```

- ・ Scanmail パッケージを削除します。

```
# rpm -e scanmail
```

③アンインストール後の確認をします。

- ・ scanmail のパッケージが削除されていることを確認します。

```
# rpm -qa scanmail
```

- ・ 関連ファイル(※)がないことを確認します。

```
# ls -l /usr/libexec/postfix
```

※関連ファイル一覧

/usr/libexec/postfix/anvil
/usr/libexec/postfix/bounce
/usr/libexec/postfix/cleanup
/usr/libexec/postfix/discard
/usr/libexec/postfix/error
/usr/libexec/postfix/flush
/usr/libexec/postfix/lmtp
/usr/libexec/postfix/local
/usr/libexec/postfix/master
/usr/libexec/postfix/nqmgr
/usr/libexec/postfix/oqmgr
/usr/libexec/postfix/pickup
/usr/libexec/postfix/pipe
/usr/libexec/postfix/proxymap
/usr/libexec/postfix/qmgr
/usr/libexec/postfix/qmqpd
/usr/libexec/postfix/scache
/usr/libexec/postfix/scandb
/usr/libexec/postfix/scanmail
/usr/libexec/postfix/showq
/usr/libexec/postfix/smtp
/usr/libexec/postfix/smtpd
/usr/libexec/postfix/spawn
/usr/libexec/postfix/tlsmgr
/usr/libexec/postfix/trivial-rewrite
/usr/libexec/postfix/verify
/usr/libexec/postfix/virtual

2. インストールされているパッケージの削除 — sbassdk

①sbansdk をアンインストールします。

```
# rpm -e sbassdk
```

②アンインストール後の確認をします。

- ・ scanmail のパッケージが削除されていることを確認します。

```
# rpm -qa sbassdk
```

- ・ 関連ファイル(※)がないことを確認します。

```
# ls -l /usr/local/lib
```

※関連ファイル一覧

```
/usr/local/lib/bmi.xml  
/usr/local/lib/libbmiclient.so  
/usr/local/lib/libbmiclient.so.1  
/usr/local/lib/libbmiclient_loader.a  
/usr/local/lib/libbmiclient_single.so  
/usr/local/lib/libbmiclient_single.so.1  
/usr/local/lib/libbmishareddata.so  
/usr/local/lib/libxml2.so  
/usr/local/lib/libxml2.so.2  
/usr/local/lib/libxml2_single.so  
/usr/local/lib/libxml2_single.so.2
```

◇既存パッケージの再インストール

既存パッケージを再度インストールします。

1. sbassdk インストール

①既存バージョンの sbassdk をインストールします。

```
# rpm -ivh /root/scanmail410/backup/sbassdk-6.10-0.i386.rpm
```

②インストール後の確認をします。

- ・ sbassdk のパッケージを確認します。

```
# rpm -qa sbassdk
```

※sbassdk-6.10-0 がインストールされていれば切り戻し成功です。

③ 関連ファイルが設置されたことを確認します。

```
# ls -l /usr/local/lib
```

2. scanmail インストール

① 既存バージョンの scanmail をインストールします。

```
# rpm -ivh /root/scanmail410/backup/scanmail-4.9-antispam_SMTPAUTH_TLS.rpm
```

②インストール後の確認をします。

- ・ scanmail のパッケージを確認します。

```
# rpm -qa scanmail
```

※scanmail-4.9-antispam_SMTPAUTH_TLS がインストールされていれば切り戻し成功です。

③関連ファイルが設置されたことを確認します。

```
# ls -l /usr/libexec/postfix
```

3. Scanmail 停止

設定ファイルの切り戻しのため、に Scanmail を停止してください。

```
# service postfix stop
```

```
# /etc/init.d/scandb stop
```

4. 設定ファイルの適用

scanmail 設定ファイルを切り戻します。

```
# cp -p /root/scanmail410/backup/scanmail.cfg /etc/scanmail.cfg
```

```
# cp -p /root/scanmail410/backup/sbassdk/bmi.xml /usr/local/lib/bmi.xml
```

5. Scanmail 起動

Scanmail を起動します。

```
# service postfix start
```

```
# /etc/init.d/scandb start
```

以上にて作業は完了です。